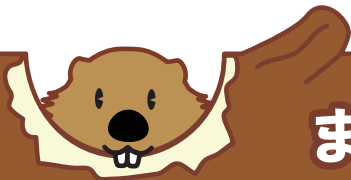


発見!!



まちの EAGER BEAVER



市ゆかりのイーガービーバー（熱心ながんばりやさん）を紹介します。

高専生ならではの視点で活性化を目指す

ARURU（あるる）

キャリア教育を通じ、子どもたちにもものづくり産業への興味と地域への愛着を育んでもらおうと、新居浜高専の2年生3人による学科を超えたプロジェクトチームの活動が本格化しています。

メンバーは、星加彩里さん（電気情報工学科）、瀧本蛍さん（生物応用科学科）、古本瑠々さん（機械工学科）。3人とも専門分野が異なるため、さまざまな視点からアイデアを広げていけるのがチームの強みです。誕生のきっかけは、古本さんが加藤朱莉助教（機械工学科）から、起業アイデアなどを競う校内コンペに誘われたこと。今年2月、仲が良かった2人とともに商店街活性化に向けたアイデアを発表、優秀賞に輝きました。

その後も活動は途絶えることなく、今度は若者の職業観醸成に着目。地元離れを食い止め、「新居浜で働きたい」と思える若者を増やすためのアイデアを考えました。新居浜のものづくりの魅力を伝える、かるた教材の作成に乗り出します。「ただ講義をしても小学生には分からないと思う。かるたなら一緒に楽しみながら覚えてもらえる」と古本さん。かるたの定着化と合わせ、職業観向上アプリの開発にも着手したい考えです。



（左から）古本さん、星加さん、瀧本さん



活動のPRを兼ね、惣開公民館で出前講座に臨むメンバー



次世代ネットワークの皆さん



夏休み親子防災教室でサポート役を務めるメンバー

中高生が地域の防災活動で活躍！

次世代ネットワーク



Instagram

「地域の防災力を高めたい」。そんな強い思いを胸に、市内の中高生約10人が市民の防災意識向上に一役買っています。

2020年、公民館の防災イベントに参加していた中学生が中心となって結成。その思いに共感した後輩たちが活動を引き継ぎました。

メンバーの半数以上が防災士の資格を取得。学校などに出向き、防災に関する授業の講師を務めています。地域の防災事業の企画や運営にも参画。災害時の対応を考えるカードゲーム「クロスロードゲーム」、外出先で被災した際に役立つ「防災ポーチ」の実習など、若者ならではの柔軟な発想で、幅広い世代が楽しく学べるように工夫しています。

いつ起こるか分からない災害に備え、「他県で起こった災害でも、『自分ごと』として考えることが大事」とメンバー。災害時には「地域の協力が欠かせない」と強調します。

現在は、地域の状況に合わせた避難所マニュアルの作成に取り組んでいます。市内に住む外国人の防災に目を向けるなど、地域防災の担い手として、防災の輪を広げるべく知恵を絞っています。